

第2回千葉吃音交流会まとめ

<日時>：2016年11月23日（水祝）13：30～16：30

<場所>：千葉市中央コミュニティセンター 5F美術視聴覚室、講習室

<参加者>合計42名

- ・吃音者本人（中学生～二十歳代の若者） 12人
- ・保護者他 12人
- ・スタッフ（言語聴覚士・言友会会員・「ことばの教室」関係者その他）：18人

<内容>総合司会：佐藤一郎衛

0) 初めの挨拶：長澤泰子 13：30～

1) 吃音のある若者の体験談：青山誠さん（千葉言友会）13:35～

吃音者の就労について講演しました。前半ではご自身の就活体験の苦労などが紹介され、後半では吃音者が就労する際に心得ておくべきことが話されました。参加者の中には現在就活中の人もいましたので、きっと参考になったことと思います。

青山さんのスピーチがとても上手だったので、以前のスピーチはどうだったのかと、司会（鈴木勉）から質問したところ、「言友会に入会してから吃音が改善した」とのことでした。「なるほど！」講演の後、司会で質疑応答の時間を取り、参加者からいくつも質問が出されました。

2) 吃音の本人同士、保護者同士での話し合い14：30～

■中学生グループ 藤森

中学生2名とスタッフの言語聴覚士3名でこじんまりと、お菓子を食べ、お茶を飲みながら、お話をしました。苦手な音読やみんなの前での発表などへの対処法、高校受験、英検の面接、友人付き合い、楽しんでいることなど、ポジティブな思いも、ネガティブな思いも両方を話し合いました。飾らない言葉で話してくれる中学生から、スタッフも大いに刺激を受け、学ばせてもらうことができました。雨の日も晴れの日もあるでしょうが、どんなときも話し合える場になるといいなあと思います。

■高校生グループ 佐々木

高校生、小学校教員(ことばの教室担当)、言語聴覚士養成校学生、スタッフ含め7名のグループでした。友人付き合いについて、就職活動についてなどを中心に話が進みました。お菓子を食べながら就職や仕事をする事について話をしました。参加者の皆さんの考えを聞かせてもらい、スタッフの経験をお話しみんなで悩みや対応を考えるような場となりました。吃音を持つ人が社会に出て働くことについて今後も考えていきたいと思っています。

■若者グループ 青山

私のグループ内では、就職活動中の方がほとんどであり、就職における不安を持っている方々の話を聞きながら、私の経験をもとに意見交換をしました。就職活動中の方には、今度お会いする際は、いい報告が聞けることを願っております。

■保護者グループ 花房

小学生の保護者が意外に多く、発言に積極的だったため、中高生の保護者は話しにくかったかもしれません。悩みやニーズが異なるため、途中でグループを分けるなどの工夫が必要だった、吃音についての基本的な知識等を書いたパンフレットなどを用意しておいたほうが良いのではないかと、中高生の相談ニーズはやはり多く地域ごとに相談できる機関の情報がわ

かるとよいのではないか、「ことばの教室」の活用方法など今後一つのテーマになるのではないか、など今後に向けて思いました。

■各グループからの全体報告の中で

印象的だったことは、「カミングアウトするって、分かってくれる人がいるっていう気持ちがあって出来るんだよね！」→『ことばの教室』の先生から

3) ミニライブ

第1回に引き続き、「どもり系アーティスト」清水裕治さんのギター演奏と、体験談の講演者の青山さんとのコラボ。1曲目は美空ひばり『愛燦燦（あいさんさん）』で、人生の切なさをハスキーな声で歌い上げるように、また2曲目は清水さんのオリジナルソング。吃音を笑った「あなた」に対する語りかけから始まり、ラストは吃音がある人に向けての力強いメッセージとなっていました。3曲目は前日も歌った『上を向いて歩こう』で、参加者全員でひとつの時間と会場の空気感を共有しました。メカに強い青山さんは、タブレットのドラムアプリでリズムを取りながら、清水さんとの素敵なコラボを披露。吃音についての色々な思いが沸き起こりながら聴き、歌った3曲でした。

以 上

